

## 検査内容変更のご案内

謹啓 時下益々ご隆盛のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度、別掲の検査項目におきまして、検査内容を変更させて頂くことになりましたのでご案内申し上げます。

今後とも変わらぬご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

敬 白

記

《検査項目》 (4580) 心筋トロポニンI (TnI定量)

《変更日》 2020年7月21日 (火) 受付分より

《変更内容》 詳細は裏面をご参照ください。



## 《変更内容》

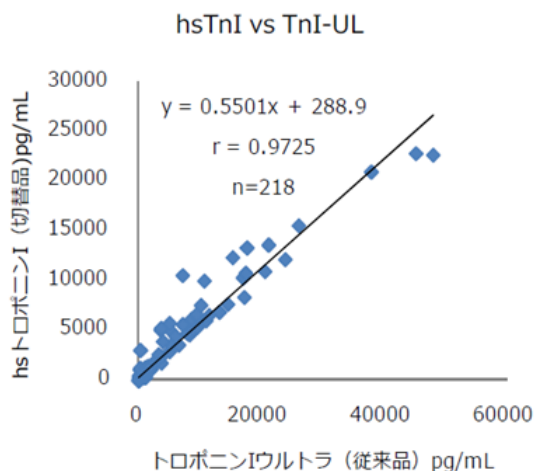
検査コード	項目名称	変更箇所	変更後	変更前
4580	心筋トロポニンI (TnI定量)	項目名称	高感度心筋トロポニンI	心筋トロポニンI
		検査コード	6616	4580
		検査材料	血清	血清又はEDTA血漿
		単位	pg/mL	ng/mL
		基準値	46.47pg/mL以下 (99パーセンタイル値)	0.040ng/mL以下 (99パーセンタイル値)
		報告下限値	2.50pg/mL	0.006ng/mL
		報告値	少数第2位	少数第3位

※検査方法や必要量、報告日数についての変更はございません。

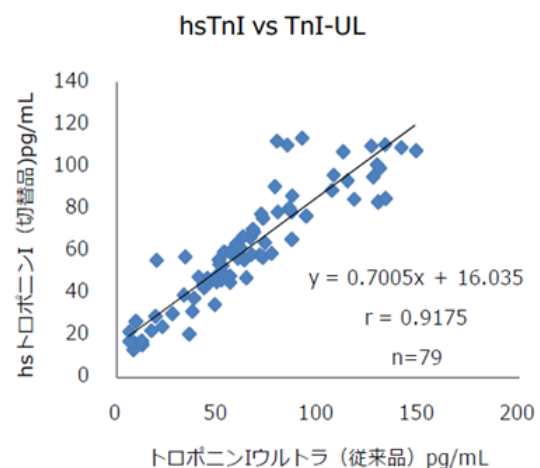
尚、変更に伴い、4580 心筋トロポニンIの受託は中止させていただきます。

## 《相関図》

フルレンジ対象



低濃度域対象



(相関図は報告単位を合わせて表記してあります。)

2018年の欧州心臓学会において、日常的な臨床使用のための高感度トロポニン(High-Sensitivity)アッセイが推奨されました。

また、2015年にESC(ヨーロッパ心臓病学会)より発行されました「非ST上昇型急性冠症候群の診療ガイドライン」では、非ST上昇型心筋梗塞を迅速に診断するための0h/1h rule-in and rule-out アルゴリズムを活用する場合は、高感度試薬を用いるように規定されています。

さらに、日本循環器学会より発刊されている『ST上昇型急性心筋梗塞の診療に関するガイドライン(2013年改定版)』において、心筋梗塞診断の必須条件として Universal Definition が推奨されています。ヨーロッパ心臓病学会(ESC)、米国心臓病学会(ACC)、米国心臓協会(AHA)、世界心臓連合(WHF)においてコンセンサスの取れた Universal Definition は2018年に第4改定へ一新され、その中でも High-Sensitivity トロポニンの有用性が示されています。